

進め！ 銚子ジオパーク！

銚子ジオパークに求められるもの

問合せ 銚子ジオパーク推進協議会事務局

☎(24)8739(生涯学習課内)



▲青少年文化会館の銚子ジオパーク展示コーナー

晴れて日本ジオパークの仲間入りをした銚子ジオパークですが、他の先輩ジオパークと肩を並べるためには、まだまだ多くの課題を解決する必要があります。それは、昨年8月にジオパーク認定のため現地審査に訪れた日本ジオパーク委員会から示されました。

例えば、ジオパークの見どころである犬吠埼などの「ジオサイト」には、訪れる人に届けたいメッセージを凝縮したキャッチコピーを盛り込んだ説明板を設置すること。その内容は、小学6年生の子どもたちが理解できる易しい説明の記載が求められています。

現在の取り組みとしては、銚子市青少年文化会館内にある郷土資料室の一部に、銚子の大地の成り立ちを紹介する展示コーナーを設置しています。今後も順次、展示替えなどを行いながら銚子ジオパークの拠点として整備していく予定です。さらに青少年文化会館以外にも、観光客に銚子ジオパークの見どころを紹介する案内所などの整備を検討しています。

銚子市は、東日本大震災に伴う風評被害などの影響により、観光業を中心に大きな打撃を受けました。現在、市全体で復興に取り組んでいます。日本ジオパーク認定後、各地からジオツアーへの参加が少しずつ増えてきています。大活躍のジオガイドの皆さんも、お客さまからの意見をフィードバックして、ガイド技術の向上に努力しています。

地域学習としてこれまで利用してきた地域の歴史、文化、地質などの資源をいかにツーリズムとして結びつけていくかという視点に立ち、銚子ジオパークの魅力をさらに磨き上げていきたいと思っています。

今月の表紙



八中最後の卒業生14人の熱演
創作劇「延命姫」公演

今年3月に閉校となる第八中学校で昨年11月24日(土)、「閉校記念イベント 八中フェスティバル」が開催され、最後の卒業生14人総出演による創作劇「延命姫」が披露されました。

この演劇は、八中学区の通津洞を舞台に、陰陽師の安倍晴明と、長者の娘の延命姫との悲恋の伝説をもとに、音楽師の安田登さん(銚子ふるさと大使)が創作。笛や鼓を使う能や狂言の要素がふんだんに散りばめられたもので、昨年3月から安田さん、笛方の榎宅聡さん、狂言師の奥津健太郎さんが指導にあたってきました。

公演には卒業生など約400人が来場。八中伝統の「鳴り物」演奏と、1時間にわたる大舞台を演じきった生徒たちに、惜しめない拍手が送られました。

延命姫を演じた生徒会長の石毛綾さんは「皆さんの心の中に、いつまでも八中の輝きが残ってほしい」とあいさつし、イベントを締めくくりました。